

◎学生委員会

学生主事 檀上 光昭

1. 基本的な考え方

[1] 全教職員が協力して学生指導に当たる。

[2] 学生、教職員も含めて、自分たちの学校は自分たちで良くして行くよう努力する。

2. 学生指導に関する目標

2. 1 社会ルールの遵守とモラルの向上

・平日の2時間目と3時間目の休憩時間および昼休みに全教員で分担して、巡回指導を行った。

[1] 登校指導、挨拶運動の徹底

(1) 最低週一回の登校指導

・教員全員の当番制によって、週1回の登校指導を実施できた。また、その際、学生医院の担当で、自転車置場の整理をした。これによって、はみ出して駐輪する自転車はほとんどなくなった。

(2) 教職員へ学生への挨拶の依頼

・運営会議、教員会などを通して依頼し、わずかの例外を除いて、実行できている。

[2] 1, 2年生の茶髪、ピアスの指導の徹底

(1) 担任への指導依頼

・指導依頼を行い、アンケート調査（6月と3月に実施）によって昨年に比べて大幅に減少させることができたことが確認された。しかし、まだ、指導に従わない学生もあり、その対策が今後の課題となる。

(2) 教職員への指導依頼

・運営会議、教員会などを通して、依頼したが、十分徹底していない。

[3] アルバイト指導の徹底

(1) 担任への指導依頼

・運営会議、学年担任会などを通して依頼した。しかし、指導内容について十分な共通理解が得られなかった。

(2) 教職員への指導依頼

・運営会議、教員会などを通して、依頼したが、十分徹底していない。
・アルバイト指導については。学生委員会で担任にアンケート調査を行い、上記問題点の指摘と来年度に向けた提案を行い、今年度の運営会議で承認された。

[4] 共用施設の利用ルールの徹底

(1) 利用ルールの周知

・利用ルールを定め、実行したが、一部(ロッカー室の清掃など)徹底できなかった部分もあった。その他は、概ね良好に運用されている。

(2) 定期的な施設の点検

・学生課職員と協力して、不定期に行った。

[5] 盗難防止対策

(1) 学生へ自衛の呼びかけ

(2) 体育教員への協力依頼

(3) 巡回時の指導

・学生委員会で包括的な防止対策を立案し、運営会議でも了承された。

その内の、できるもの（傘立ての移動、体育教員への依頼、学生への呼びかけ、盗難届の励行とその掲示板への掲示など）から、実施している。

・昨年度よりは減ったようだが、依然として盗難の届けは月に1回程度の割合である。

[6] 学生の服装を含む身だしなみ、および食べ歩き、ポイ捨てなどの対策

(1) 教職員への指導依頼

(2) 巡回時の指導

・ほとんどできていないのが、実状である。その対策が来年度の課題である。

[7] 万引き、窃盗、交通マナー（自転車の二人乗りなど）

(1) 教職員への指導依頼

(2) 巡回時の指導

・交通マナーについてはほとんどの教員が、見かけたとき注意をしているが、学生たちはその場をやり過ごせばよいと思っているようである。

・車両使用に関しては、3回朝の登校時に許可車両のチェック、交通マナー等について指導した。また、回警察署に依頼して、交通安全講習会を1回開催した。

・今年度は万引き、窃盗の事例報告はなかったが、窃盗の可能性は盗難届からみて十分にあるものと思われる。

[8] 喫煙対策

(1) 喫煙者に対する個別指導の導入

・できなかった。来年度の課題である。

(2) 禁煙外来指導の徹底

・今年度禁煙指導した10名すべてが、禁煙外来を受診した。

(3) 禁煙講演会の開催

・学生向けには行わなかったが、来年度の校内全面禁煙に向けて、教職員向けに、学校医による健康講演会を行った。

[9] 環境美化、図書利用の活性化

(1) 環境委員、図書委員を通して実施

・環境委員、図書委員の活動によって、活発に行われた。

(2) 優秀者の表彰

・読書感想文の優秀者、クラスでの図書の利用数が多いクラスの表彰を行った。

[10] 性教育

(1) 性教育講演会の開催

・1年生を対象に1回開催した。

(2) 保健の授業や特別活動を利用した性教育の依頼

・保健の授業の担当者に依頼して、実施した。

2. 2 課外活動の活性化

[1] チャレンジプロジェクトの支援システム

(1) 広報活動の徹底

・学生委員の中に担当者をおき、クラスへの掲示などを行ったが、応募数はあまり多くなかった。学生に応募してみたいという気持ちを持たせるような方策が必要である。

・学生委員会で、広報活動についての見直しをすることが決定されている。

(2) 報告会の方法の検討

・今年度は、全学生の前での報告会が実施できなかった。掲示や展示などでの

報告になってしまったことが、反省点である。

[2] 部活指導のあり方についての議論の深化

(1) 教員の意識の統一に向けた努力

- ・アンケート等で意識調査を行い、統一した方針を打ち出す予定であったが、実行することができなかった。来年度早々に実行する予定である。
- ・教員と学生の顧問に対する要望を聞き、学生委員会で検討すると言うやり方は実施できた。
- ・勤務時間外の部活動に対して、17:15～19:30の間、全教員が2名ずつのペアで、クラブ活動安全指導を行なった。これによって、勤務時間の適正化とともに、部活指導未経験の教員にもクラブ活動の状況認識をすることができた。

(2) クラブ顧問との定期的な会合

- ・数回行ったが、十分ではなかった。

(3) アンケートによるクラブ活動の実態把握

- ・できなかった。

(4) 全員顧問制についての検討

- ・学生委員会で検討し、今年度から全教員からクラブ顧問の希望を聞いている。

(5) 課外活動のPR

- ・ホームページへの掲載を依頼している。

(6) 課外活動時の車両違反、マナー(2人乗りなど)対策

- ・クラブ顧問へ依頼しているが、十分ではない。

[3] 学生会活動の活性化

(1) 学生会および国領祭担当教官の設置

- ・学生委員の中から担当者を選び、適切な指導を行った。

(2) 代議員会の定期的な開催依頼

- ・学生会へ依頼し、実行できた。

(3) 学生委員会と学生会との定期的な交流会の開催

- ・学生会担当の委員とはかなり頻りに交流を行ったが、学生委員会との交流会は開催できなかった。代わりに、学校側と学生会を含む学生代表との交流懇談会を実施した。

(4) 学生会へ校門挨拶運動の実施を依頼

- ・依頼を行い、月に1回行う方針が決定され、実行された。

(5) リーダー研修の実施

- ・できなかった。来年度の課題である。

(6) 来年度の総合文化祭に向けた準備

- ・準備会を立ち上げ、学生会へもテーマ等の検討を依頼した。3月末の四国地学生交流会の際、他高専への広報を行う予定である。

(7) 校歌を全員が歌えるよう学生会へ依頼

- ・依頼は行ったが、組織的な取り組みは行っていない。

[4] 文化部活動の活性化

(1) 発表機会の増加

- ・文化部顧問に依頼しているが、それほど実績は上がっていない。

(2) 良い作品の表彰

- ・総文での優秀作品を、図書館入り口に展示している。
- ・学内でのコンクールは読書感想文、ロボコン、プロコン以外には行えなかった。

[5] 帰宅部対策

- (1) 部活のPRによる参加呼びかけ
- (2) チャレンジプロジェクト、ロボコン、プロコン、高専アイデア通りなどの企画を通しての参加呼びかけ

・(1)(2)とも担任、学生委員会、学生会などを通して参加呼びかけを行ったが、クラブ参加者は年度当初で昨年度の54%から58%へわずかに増加したのみである。

[6] 学生と地域との交流の推進

- ・学生委員会としての組織的な取り組みはできなかった。
- ・新居浜市の水害ボランティアに多数の学生、教職員が参加した。
- ・プロコン全国大会や学園祭の際、学生会として水害や地震の義援金を募集した。
- ・チャレンジプロジェクトで幼児対象の奇術公演を行い、地域社会との交流を図った。

[7] 専攻科学生の広報活動支援（国領祭での発表機会など）

- ・国領祭での発表を依頼して、活動の展示を行った。

2. 3 プログラミングコンテストおよびロボットコンテスト支援体制について

[1] プログラミングコンテストの本校での開催準備

[2] プログラミングコンテスト参加学生の支援

[3] 四国地区ロボットコンテストの本校での開催準備

[4] ロボットコンテスト参加学生の支援

- ・昼休みの時間帯を利用して、学生食堂前でプロコン、ロボコンのビデオを放映し、学生への啓蒙を行った。
- ・いずれも学内予選を行ったが、参加者はプロコンやロボコンを既にやっている学生であった。
- ・教職員は忙しい中、協力をして頂き、無事競技を終えることができた。
- ・ロボコンは6年に1回の開催になるので、前回開催の資料が散逸しており、また、他高専の資料も手に入りにくい状況があった。これらの改善が今回の反省点である。

○ 総括的な評価と課題」

教職員が協力して学生指導にあたることに関しては、休憩時間や昼休みの巡回、クラブ活動安全指導やプロコン、ロボコンの準備など、かなり実現できてきている。その結果、挨拶をする学生が増えた、茶髪ピアスの学生が減ったなどの目に見える成果が得られている。

また、プロコン、ロボコン、チャレンジプロジェクトおよびアイデア通りプロジェクトを通して、積極的に物事にチャレンジしていこうとする学生が少数ではあるが出てきていることは評価に値する。また、学生会活動も昨年よりも組織的に行われた。

課題としては、

- (1) 学生指導の具体的なやり方について、教員間にかかなりのばらつきがあり、指導の一貫性に欠けていた面があった。
 - (2) 指導に素直に従わない学生に対する対策が不十分であった。
 - (3) アルバイトの指導や盗難対策などが十分な成果を上げることができなかった。
 - (4) ボランティア活動の組織的な支援が十分でなかった。
 - (5) 課外活動に不参加の学生が少なからずいる。
- がある。これらの対策が、来年度の大きな課題である。